

令和6年度第2回会議（書面会議）における委員意見とその対応について

【「議事（1）地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価」に対する意見】

[意見等①] 目標・効果達成状況について、1つめの利用者数の実績の基になるデータは資料で確認できますが、2つめの経常収支率、3つめの町負担割合の実績の基になるデータが確認できない。

[事務局コメント] 地域公共交通確保維持改善事業における循環バスの経常収支率及び町負担割合のデータについては次のとおりとなります。

	R6 補助年度		R6 補助年度
経常収入	1,298,600 円	経常収入	1,298,600 円
経常費用	21,791,000 円	経常費用	21,791,000 円
		国庫補助	3,180,000 円
		町負担額	17,312,400 円
経常収支率	6.0%	町負担割合	79.4%
R6 目標値	4.7%以上	R6 目標値	81.2%以下
目標達成状況	達成	目標達成状況	達成

[意見等②] 循環バス、デマンドバスとの違いを理解できるようになってきていると思います。町の説明機会が充実しているのだと思います。

[事務局コメント] 取り組みを評価いただきありがとうございます。今後も地域住民に対する広報や出前型による説明機会を重ねるなど安平町地域公共交通計画に基づく取組を推進するとともに、委員をはじめ町民の皆さんの声をお聞きしながら公共交通の活性化に努めてまいりますので、引き続きご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

[意見等③] 利用者も増え、バス停で各々の乗り物を待っている人を見てみると、炎天下の中であつたり、降雪の中だつたりと、気の毒に思うことがあります。せめて屋根のようなものがあると良いのにとと思います。

[事務局コメント] これまでもベンチの設置を行ったり、上屋や防風性のあるバス停の設置検討を行ってまいりましたが、安平町地域公共交通計画においては、既存の風除室などを待合空間として活用させていただきながら、

公共施設や商店の利用促進などの連携による相乗効果を期待する考え方により、待合環境の確保を行っています。他自治体では、「私たちの大切なバス停」として自治会等で公共交通事業やバス停そのものを重要な施設と位置づけて、待合環境の改善や美化活動を住民主導で行っている事例もあり、安平町地域公共交通計画においても協働による取組項目として登載しております。町内における類似例としては「樽たるハウス」もございますので、まずは具体的にお困りの声が届いているバス停の状況を把握し、改善策の検討へと進めてまいります。

〔意見等④〕 循環バスの利用実績が、利用者数、経常収支率、町負担割合の3項目すべて達成できたことは、関係する皆さんの努力成果と思います。次年度以降は、循環バス運行面で全経費高騰と思われます。利用者への価格転嫁、負担増にならないように配慮して欲しいです。

〔事務局コメント〕 現在のところは、循環バス運賃への価格転嫁は考えておりません。しかしながら、循環バスの運賃設計においては、鉄道、地域間幹線バス、デマンドバス、ハイヤーといった町内の公共交通のサービス及び運賃とのバランスを重視した側面があり、また町の財政事情も踏まえる必要がございますので、中長期的には運賃の見直しもあり得ます。見直しが必要となる時期が来た場合には、委員や町民の皆さんとの丁寧な議論を進めてまいります。

〔意見等⑤〕 循環バスはいまのところ順調に推移している。始発場所を「いぶき」にしてはどうか。

〔事務局コメント〕 循環バスは「他の公共交通との調和に考慮しながら、追分、安平、早来、遠浅の地区間を跨ぐ移動を担うもの」としています。これを踏まえ、車庫の所在地、運転手の休憩場所の確保、町民の道の駅へのアクセス、重複ロスや登坂回避などの運行経路の最適化等を総合的に検討した結果、現在の道の駅を始発・終点としています。始発場所を「いぶき」とすることで現行を上回る効果が得られるのであれば、前向きに検討いたしますので、引き続きご相談させていただければと存じます。

[意見等①] あちらこちらで自由乗降区間が増えるといいですね。

[事務局コメント] このたびの実証調査の結果等を踏まえ、青葉豊栄幹線の一部（青葉会館付近～灯臺舎さん付近の直線区間）と追分安平線の一部（花若入口バス停～追分南公営住宅付近の直線区間）の２区間を自由乗降区間として増設することにいたしました。今後も他の公共交通との調和を崩すことがないよう慎重を期しながら、循環バスの改善を図ってまいります。

【「議事（３）早来地区におけるハイヤー事業」に対する意見】

- [委員意見] ①早来地区のハイヤー利用が定着してきたところでの退職、残念でした。次の方に期待します。近場でも気兼ねせずに利用してもらえると良いのにと考えていました。
- ②早来地区のハイヤー営業が週６日になるように、早期に隊員・ドライバーの補充に努めていただきたい。

[事務局コメント] 地域おこし協力隊制度を活用し、２名の隊員を導入して早来地区のハイヤー空白対策を行っているところです。この２月に１名が病気退職になりましたが、その後補充者が内定し、令和７年６月までに週６日営業（月～土曜の８時３０分～１８時５０分）を再開できる見込みが立ちました。道外からの移住、二種免許も４月の着任後に取得予定の方でありますので、地域の皆さんには温かくお迎えいただき、多くのご利用をいただけますと幸いです。